

令和5年度

山岳スポーツセンター

維持管理事業実施状況総括書

公益財団法人 神奈川県公園協会

I 維持管理事業計画の実施状況

| 項目 | 細項目 | 実施状況 |
|------------------------------------|---|--|
| I サービスの向上 1 指定管理にあたっての考え方、運営方針等 | (1) 指定管理業務全体を通じた団体等の総合的な運営方針 | ・山岳スポーツセンターの設置目的及び山岳スポーツの拠点施設であることを把握して施設運営を行った。 |
| | (2) 秦野戸川公園と山岳スポーツセンターの一体的な管理運営にあたっての基本的な考え方 | ・秦野戸川公園内にある3施設（秦野戸川公園、秦野ビジターセンター、山岳スポーツセンター）で利用促進、諸問題等の改善のため連携を図った。 ○2/17 三館合同イベント「みんなで登る・作る・学ぶ」 山岳 SC「登る」・公園「作る」・秦野 VC「学ぶ」 参加者 25 名 指導員 5 名 |
| | (3) 利用者や地域住民、環境等に配慮した管理運営方針 | ・日頃から「公平」、「透明性」、「厳正」に対応した。 ・利用者満足度アンケートを実施し利用者ニーズの把握に努めた。 ・ゼロエミッション等環境に配慮した維持管理に努めた。 |
| | (4) スポーツ・競技振興に関する考え方 | ・登山愛好者やクライミングウォール愛好者はもとより、何方にもきめ細かく対応しスポーツ振興に努めた。 ◇神奈川県山岳連盟の協力を得て底辺拡大のイベントを実施した。 ○4/17 秦野丹沢まつり 山開き体験クライミング 参加者 73 名 指導員 8 名 ○7/22～23 星空観察と親子シャワークライミング 参加者 9 名 指導員 4 名 ○8/11 山の日 in HADANO 親子体験クライミング 参加者 10 名 指導員 3 名 ○10/9 親子でチャレンジクライミング（県民スポーツ月間） 雨のため中止 ○10/21 秦野戸川公園まつり体験クライミング 参加者 9 名 指導員 5 名 |
| | (5) 業務の一部を委託する場合の考え方、業務内容等 | ・高度な技術や専門的な資格を要する業務は専門業者に委託し、適正な維持管理に努めた。 *別紙委託業務一覧表参照 |
| 2 施設の維持管理 | (1) 一体的な管理運営による効率的な維持管理 | ・植物管理等、直営業務を相互に兼務するなど、効率的な維持管理に努めた。 ○県スポーツ課発注工事 ・屋外リードクライミングウォール機械設備工事が開始され、11月から塗装工事の一部が着工し2月まで行われた。 ・館内の一部の照明灯 LED 交換工事が実施された。 |
| | (2) 清掃、保守点検、受付等の維持管 | (施設、保守管理) ・平成9年度の開館から26年が経過し施設の経年劣化による要補 |

| | | |
|-----------------------------------|--|---|
| | <p>理業務の実施方針</p> | <p>修箇所が増加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物品管理に当っては、毎月1回チェックを行い適正管理に努めた。 (清掃管理) ・秦野戸川公園との一体的な管理となり、委託による清掃管理を行うことにより常に清潔で快適な環境の維持に努め、適正な日常管理を行った。 (宿泊施設管理) ・特に食堂、厨房の衛生面、トイレ、シャワー室のきめ細かな清掃に配慮し、清潔で安全な施設の維持に努めた。 ・館内害虫駆除 1回目 5/15 2回目 12/18 ・給水施設の点検及び水質検査 1/29、2/26 (植物管理) ・中低木類の剪定は直営で行い環境の維持に努めた。 ・高木類は専門業者に発注し、特に重点的な維持管理を行い良好な状態の保持に努めた。 ・季節の草花を館内に植え維持管理して来館者が和めるように努めた。 |
| <p>3 利用促進のための取組み、利用者への対応、利用料金</p> | <p>(1) より多くの利用を図るために行う広報、PR 活動の内容等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・「山岳スポーツセンター条例」及び「利用等に関する規則」を遵守し利用者の確保に努めた。 ・神奈川県、秦野市、県山岳連盟との四者会議及び公園、ビジターセンター、はだの丹沢クライミングパークとの四館会議行い、事業の普及利用促進に努めた。 ・団体利用者間での事前調整により、予約が重複するなどのトラブルはありませんでした。 ・大倉バス停、秦野戸川公園パークセンター及び山岳スポーツセンター付近の案内掲示を更新するなどして利用者の拡大を図った。 ・平成21年度のホームページ開設から15年目となり、最新の情報や施設案内を掲示することによって、施設の利用が円滑に行われるよう努めた。 ・県のキャッシュレス化推進の取組の一環として、令和4年11月よりキャッシュレス化を導入し、利用者の利便性向上に努めた。 |
| | <p>(2) より多くの利用を図るために実施する登山・山岳競技等の振興に関する取組の実施方針、内容等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○4/22～23 第28回クライミングコンペオール神奈川2023 兼①特別国民体育大会県代表選手候補選考会 兼②2023年度神奈川県ジュニア強化選手候補選考会 ①参加者56名②参加者47名 ○8/11 秦野市・県山岳連盟主催山の日イベント ①親子体験クライミング 参加者10名 指導員3名 ②登山初級者講習 参加者14名 講師5名 ○県民スポーツ月間(10月)5～7日 施設無料開放日 |

| | | |
|--|--|--|
| | | <p>利用者 39 名</p> <p>○11/3 第 19 回高体連新人スポーツクライミング大会 参加校 10 校 生徒 70 名 役員 27 名</p> <p>○11/4 第 1 回神奈川スピードクライミング競技会 選手 42 名 役員 21 名</p> <p>○11/5 第 37 回かながわ県民登山 参加者 18 名 役員 27 名</p> <p>・県山岳連盟と連携を図り、登山活動を通して心身とも健全県民の育成を目標として、登山指導者育成、クライミング普及事業等各種円滑な事業実施に取り組む。</p> <p>○委託事業</p> <p>①リードクライミング教室：年 7 回 受講生 156 名 ②スピードクライミング教室：年 6 回 受講生 62 名 ③委託研修：年 13 回 参加者 671 名</p> <p>○岳連自主事業</p> <p>①登山教室：年 10 回 参加者 168 名 ②冬山教室：1 回（全 5 回）参加者 24 名</p> <p>※別紙令和 5 年度山岳 SC 利用計画兼山岳連盟行事表参照</p> <p>・3/9～10 パラクライミングジャパンシリーズ第 2 戦 参加者 36 名 役員 46 名</p> <p>・県警山岳救助訓練 6 署（秦野 小田原 松田 伊勢原 厚木 津久井） ①4/7～9 63 名 ②10/17 23 名 ③11/7～9 23 名</p> <p>・県警山岳遭難救助に使用するドローン操縦訓練 ①4/24 14 名 ②11/24 10 名</p> |
| | (3) 利用料金の設定、減免の考え方 | ・県山岳スポーツセンター条例第 13 条に基づき、県の承認を得て行った。 |
| | (4) 接客、苦情処理、利用指導等の考え方 | ・利用者の声に耳を傾けつつホームページ、パンフレット、施設利用案内チラシで公正に説明し、利用者のご理解を頂きながら利用承認事務を行った。 |
| | (5) サービス向上のために行う利用者ニーズ・苦情の把握及びその内容の事業等への反映の仕組み | <p>・利用者満足度調査を実施した要望事項について対応した。 4～9 月（上半期） 10～3 月（下半期）</p> <p>・自動販売機は、屋外に移設し 14 年目となり、利用者への利便を図っている。</p> <p>・具体的な施設利用案内をパークセンター内、大倉バス停待合所付近、山岳スポーツセンター玄関前に掲示した。</p> <p>・ホームページで、施設予約状況を小まめに更新し利用者の利便を図った。</p> <p>・夏日真夏日には、屋外クライミング施設の上部に日除け・雨よけテントを張り、大型扇風機を置いているが、新たに「ミスト」を設</p> |

| | | |
|-------------|--|---|
| | | <p>置することで、さらなる熱中症対策に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊棟和室、洋室全室のカーテンを夏冬で交換し、利用者の快適利用を図った。 |
| 4 事故防止等安全管理 | (1) 通常の指定管理業務を行う中の事故防止等の取組内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・事故防止、火災防止や犯罪発生防止のため職員不在の夜間休館日の機械警備委託を行い安全の確保に努めた。 ・「事故防止点検マニュアル」により日常点検を実施して事故防止に努めている。 ①ゴールデンウィーク期間中の緊急連絡体制 ②年末年始緊急連絡体制 ③地震・風水害警報時の緊急体制 ④山岳スポーツセンター緊急連絡網 ⑤休日等県スポーツ課事故等体制表 ・職員による施設の随時日常チェック実施 ・クライミング利用者への利用開始前の事故防止の周知 ・「施設点検チェックリスト」による日常管理実施。 |
| | (2) 事故、異常気象等の緊急事態が発生した場合の対応方針 | <ul style="list-style-type: none"> ・事故や災害発生時等の緊急時の体制および初期対応に従い適切な備えを行った。 ・大雨（大雪）警報等発表時には、施設内外を巡回し、スポーツ課へ報告。 ・事故等の発生なし。 |
| | (3) 急病人等が生じた場合の対応 | <ul style="list-style-type: none"> ・上級救命講習受講者の配置、AED 設置により急病人等の発生に備えた。 ・対応マニュアルにより対応 |
| | (4) 登山・山岳競技の危険性に鑑み、指定管理業務を行う際の事故防止等の安全確保に関する取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・職員が随時施設の巡視チェックを行い保全に努めた。 ・クライミングウォールの安全な利用のため、ホールドの設置状況、駆動装置の適正な稼働、スピード壁オートブレーキ機の毎月点検等随時専門業者に委託する等して保全に努めた。 |
| | (5) 当該公園の「震災時対応の考え方」に示す初期対応等への対応 | <ul style="list-style-type: none"> ・大規模地震発生時の参集体制と配備体制を適切に整えた。 ・緊急参集訓練を秦野戸川公園と合同で実施 5/24 |
| | (6) 大規模災害発生時の施設の特性、立地状況等に応じた災害対応の考え方 | <ul style="list-style-type: none"> ・消防訓練 1 回目 9/27 2 回目 3/27 ・BCB（事業継続計画）策定 |
| 5 地域と連 | (1) 地域人材の活 | <ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県委託事業の円滑な推進について県山岳連盟と調整を図り |

| | | |
|-------------------------------|--|---|
| 携した魅力ある公園づくり | 用、地域・関係機関との協力体制の構築 | ました。 ・体験クライミングは、県山岳連盟の指導員の協力を得て行い利用拡大を図った。 |
| | (2) ボランティア団体等の連携、協働及び育成 | ・丹沢山小屋組合と連携を密にして山岳情報の収集、意見交換を行い利用者の利便を図った。 |
| | (3) 周辺地域との交流・連携 | ・山岳事故情報等情報収集 登山者遭難救助連絡会で得た情報を登山愛好者や登山教室で伝え安全登山の一助に努めた。 |
| | (4) 一体的な管理における地域企業等への一括的な業務委託による迅速、かつ、きめ細かいサービスの提供に向けた取組内容 | ・地域に精通している地域企業への優先発注のほか、地元非営利団体等への業務委託を行った。 |
| | (5) 企業のCSR活動（社会的責任、社会貢献）や学校等との連携について | ・教員による採用5年経験者研修の一環として、異種業の体験を通して社会的視野を広げ、体験で学んだことを教育活動に活かすことを目的とした「社会体験研修」により、7月は県立有馬高等学校の教員1名、8月には県立秦野高等学校の教員1名を受け入れ、受付業務や宿泊対応としてリネンの準備等2日間に渡って実施した。 ・一人ひとりが将来の生き方を考え、自らの個性を生かし、自分に合った進路を選択できることを目標にキャリア教育の一環とした「職場体験学習」により、秦野市立南中学校第2学年4名を受け入れ、受付業務や宿泊対応としてリネンの準備を行うなど体験をした。 |
| | (6) 地域振興に関する取組 | ・遠足等の利用による屋外2mクライミングウォールの案内、秦野戸川公園と連携した運動等の利用促進等を行った。 |
| II 管理経費の節減等 | | ・効率的な作業及び職員の努力で人件費の縮減に努めた。 ・宿泊棟全室のカーテンを厚生地製に交換する等光熱費の節減に努めた。 ・利用者の協力を得ながら節減に努めました。東日本大震災以後、特に節電に努めており、利用者にも協力を頂いている。 |
| III 団体の業務遂行能力 1 人的な能力、執行体制 | (1) 指定期間を通じて両施設を効果的・効率的に指定管理を行うための人員配置等の状況 | ・常勤館長1名（兼務）、副館長1名、総括管理主任1名（兼務）、専門員（山岳施設担当）1名、パート職員（維持管理等）3名を配置。 ・毎月月末に翌月の勤務計画を作成し円滑な管理運営を行う体制づくりに努めた。 ・良好な管理運営に必要とする知識、技術の習得を図る研修、講習会を受講し職員の能力向上を図った。 |

| | | |
|-----------------|--|--|
| | | ○実務担当者研修 |
| | (2) 業務の一部を委託する場合の管理・指導体制の状況 | ・日報の提出や現地確認等により指導監督を行い、業務完了後は完了検査を行うなど、適切な指導監督に努めた。 |
| | (3) 指定期間を通じて安定して指定管理業務を行うための人材育成や職員採用の状況 | ・山岳スポーツセンターの設置目的を把握し知識及び経験を有する職員を確保した。 ・山岳関係の知識や経験豊富な人材に加えて施設管理能力がある優秀な人材が確保できた。また、27年度から秦野戸川公園との一体的な管理となり施設維持管理面での適正な対応ができた。 |
| 2 コンプライアンス、社会貢献 | (1) 指定管理業務を実施するために必要な団体等の諸規程の整備、法令遵守の徹底に向けた取組の状況 | ・「条例」「利用規則」「(公財) 神奈川県公園協会規則」各種法令等に基づき施設の適正管理に努めた。 ・事務処理、会計、利用承認等関係規則を遵守して執行した。 |
| | (2) 個人情報の保護についての考え方・方針及び個人情報の取扱いの状況 | ・「公益財団法人神奈川県公園協会個人情報保護規定」により適正に取り扱いをした。 ・パソコンはパスワード設定し使用管理している。 ・データバックアップのため新たにサーバーを設置した。 ・書面、データ類は鍵の施錠できるキャビネットに保管。 |
| | (3) 指定管理業務を行う際の環境の配慮の状況 | ・平成15年度から「環境指針」を定め環境への負荷の軽減に取り組んでいる。 ・ゼロエミッションへの取組として、コピー用紙の裏面再利用、環境製品の使用、電気、ガス、水道、灯油等の使用削減に努めている。 ・剪定樹木、落葉等の施設内処理を実施。環境に配慮したサイクル利用を図っている。 ・地球規模の環境対策が求められており、職員一人一人が自然に親しみながら共生できる社会を目指す意識の継続を図っている。 |

II まとめ

第4期指定管理業務2年目。新型コロナウイルス感染症については、令和5年5月8日から感染症の位置づけが「5類感染症」になり「新型コロナウイルス対応ガイドライン」を廃止し、一部制限をしていた研修室、食堂の人数を従来の定員とし、食器類の使用可能としました。

秦野丹沢まつり山開き、山の日 in HADANO、秦野戸川公園まつり、三館合同イベントでの体験クライミングの実施や国民体育大会代表選手候補選考会及びジュニア強化選手候補選考会を兼ねたクライミングコンペオール神奈川、高校総体クライミング大会（リード・スピード・ボルダー）等開催されました。また、第1回神奈川スピードクライミング競技会が初めて行われ、県内外からの参加者により選手同士の交流の場として有意義な大会となりました。3月には、バラクライミングジャパンシリーズ第2戦が行われ選手、スタッフ、観客が一体となった素晴らしい大会を開催することができました。また、リードクライミング教室、スピードクライミング教室、指導者養成事業についても多く参加され実施することができました。今後も利用者に安全・快適なサービスを提供し取り組んでいきます。

●利用実績

新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」となりましたが、宿泊利用は伸びず、コロナ禍以前と比較し、約400人減、約1,200千円の収入減となりました。全体の利用者数は目標値の11,200人を上回る12,600人、コロナ禍前（12,000人）と同じくらいとなりましたが、利用収入は2,038千円減の4,661千円の利用でありました。

長期にわたる新型コロナウイルス感染症に伴う運営は、主に宿泊利用に影響が現れ、ゴールデンウィークでの家族連れ、夏季期間の野球・サッカーの合宿利用の減少によって厳しい状況が続いています。山岳スポーツセンターでの宿泊利用に向け、チラシを作成し県内外に配布することで多くの方が利用されるよう情報を発信しました。今後も利用状況回復に向け取組を行っていきたい。

●施設利用者の状況

(人)

| 項目 | 利用者数 | 全体比% | R4年度 | 増減 |
|----------|--------|------|-------|-------|
| 宿泊利用 | 1,637 | 13.0 | 951 | 686 |
| 休憩利用 | 516 | 4.0 | 354 | 162 |
| 研修室利用 | 1,734 | 14.0 | 1,317 | 417 |
| 屋外クライミング | 8,707 | 69.0 | 6,287 | 2,420 |
| 総利用者 | 12,594 | 100 | 8,909 | 3,685 |

●施設利用収入額の状況

(円)

| 項目 | 利用収入 | 全体比% | R4年度 | 増減 |
|----------|-----------|------|-----------|-----------|
| 宿泊等利用 | 3,250,722 | 70.0 | 1,923,544 | 1,327,178 |
| 研修室利用 | 116,438 | 2.0 | 67,834 | 48,604 |
| 屋外クライミング | 1,293,900 | 28.0 | 1,243,200 | 50,700 |
| 総徴収額 | 4,661,060 | 100 | 3,234,578 | 1,426,482 |

●一般利用者の状況(人) 総数 4,991人

| 見学 | トイレ | 申込・下見 | 2mトラバース | その他 | 電話問い合わせ | | | 計 |
|-------|-----|-------|---------|-----|---------|------|-----|-------|
| | | | | | 施設 | 山岳情報 | 観光他 | |
| 1,920 | 10 | 23 | 1,875 | 82 | 1,080 | 0 | 1 | 4,991 |

※参考 (R4年度 5,761人)